

業況 DI は 0.3 ポイントの低下 建設業は 4 期連続で上昇

～令和7年7－9月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和7年7－9月期の調査結果をご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況 DI は低下 ～

総合の業況 DI は、前期比 0.3 ポイント低下の▲25.1 となりました。

また、今後については3ヵ月後が現在比 0.3 ポイント低下の▲25.4、半年後も同 0.9 ポイント低下の▲26.0 を見込んでいます。

2. 業種別特徴 ～ 業況 DI、製造業、建設業は改善 ～

製造業の業況 DI は、前期比 1.8 ポイント上昇の▲25.2 となりました。中分類で見ると、一般機械（同 13.4 ポイント低下の▲28.9）は低下した一方、電気機械（同 4.8 ポイント上昇の▲18.2）と輸送用機械（同 25.9 ポイント上昇の▲10.6）はいずれも上昇しました。

建設業の今期の業況 DI は、前期比 4.1 ポイント上昇の 4.1 となりました。

商業・サービス業の業況 DI は、前期比 2.8 ポイント低下の▲32.2 となりました。内訳を見ると、卸売業（同 0.4 ポイント低下の▲30.0）、小売業（同 0.9 ポイント低下の▲41.0）、飲食店（同 6.0 ポイント低下の▲24.2）、サービス業（同 7.4 ポイント低下の▲24.6）と、いずれの業種も低下しました。

また、3ヵ月後は製造業が現在比 1.4 ポイント低下の▲26.6、建設業が同 3.3 ポイント低下の 0.8、商業・サービス業が同 1.1 ポイント上昇の▲31.1、半年後は製造業が同 2.5 ポイント上昇の 22.7、建設業が同 9.1 ポイント低下の▲5.0、商業・サービス業が同 1.2 ポイント低下の▲33.4 を見込んでいます。建設業はいずれも低下を見込む一方、他の業種ではばらつきが見られました。

3. 規模別*特徴 ～ 小規模企業はいずれの DI も改善 ～

業況 DI は、中規模企業が前期比 2.3 ポイント低下の▲17.4、小規模企業は同 2.1 同ポイント上昇の▲34.0 となりました。売上 DI は、中規模企業が同 4.3 ポイント上昇の▲5.8、採算 DI が同 0.3 ポイント上昇の▲20.4、小規模企業が同 4.4 ポイント上昇の▲19.9、採算 DI が同 1.5 ポイント上昇の▲27.9 となり、小規模企業はいずれも改善しました。

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、6地区が上昇 ～

地区別の業況DIでは前期より上昇したのは6地区（横浜、川崎、横須賀、藤沢、相模原、厚木）で、低下したのは2地区（平塚、足柄上・西湘）でした。特に変化の大きかったのは平塚（前期比18.3ポイント低下の▲41.7）でした。

3ヵ月後は、現在比で4地区（川崎、平塚、相模原、足柄上・西湘）が上昇、4地区（横浜、横須賀、藤沢、厚木）で低下すると見込んでいます。

半年後では現在比で5地区（川崎、平塚、藤沢、相模原、足柄上・西湘）が上昇、3地区（横浜、横須賀、厚木）で低下を見込んでいます。

5. その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

～ 経営状況では製造業、建設業の「売上高」が改善 ～

経営状況では、「売上高」が総合で前期比4.3ポイント上昇の▲12.3となり、製造業では同11.7ポイント上昇の▲8.3、建設業は同12.8ポイント上昇の2.5、商業・サービス業では2.7ポイント低下の▲18.6となりました。

コメントでは、「好調、不調の間を行き来している。」「現状のままでは数年先は先細りしていくと予想しており、今後は新たな事業と、人材・設備の増強が必要と考えている」などの声が上がっていました。

◇副業・兼業人材についての特別調査

1. 全体的特徴

～ 副業・兼業人材について、「活用したことがない」企業が約9割 ～

副業・兼業人材の活用に関して調査したところ、活用の状況（図1）は、「活用したことがある」と回答したのは10.4%、「活用したことがない」は89.6%となりました。

活用したことがない理由について最も多かったのは、（図2）のとおり、「満足できる成果を得られるか不明」が40.4%で最も多く、次いで「人材が足りている」の38.0%、「どのような人材がいるかわからない」の31.6%、「費用面に不安がある」15.9%、「受入方法がわからない」13.4%、「その他」の5.4%が続きました。

図1 副業・兼業人材の活用について

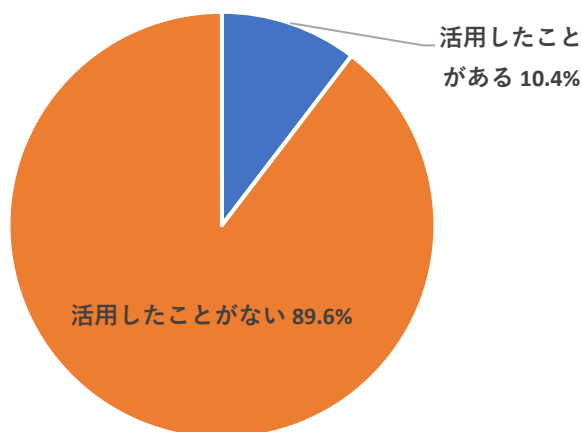
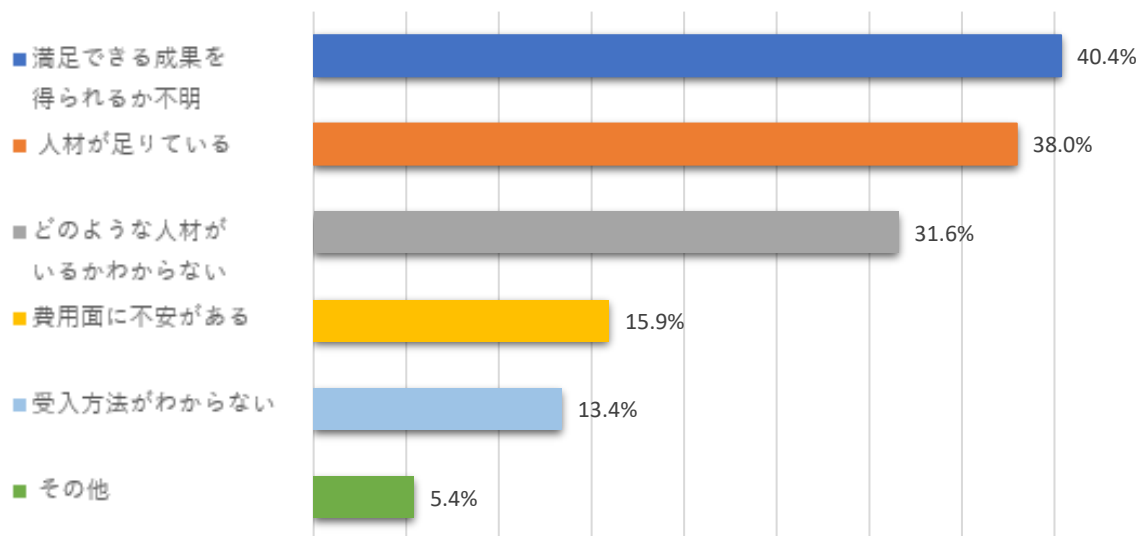


図2 副業・兼業人材を活用していない理由 ※複数回答



2. 業種別特徴 ～ 商業・サービス業が活用に積極的 ～

活用状況について業種別でみると、(図3) のとおり「活用したことがある」と回答した割合が最も多かったのは商業・サービス業で14.0%、次いで製造業の7.5%、建設業の7.1%でした。

活用していない理由(図4)については、製造業と商業・サービス業では「人材が足りている」と回答したのが最も多かったのに対し、建設業では「満足できる成果を得られるか不明」が6割を超える結果となりました。

図3 副業・兼業人材の活用について(業種別)

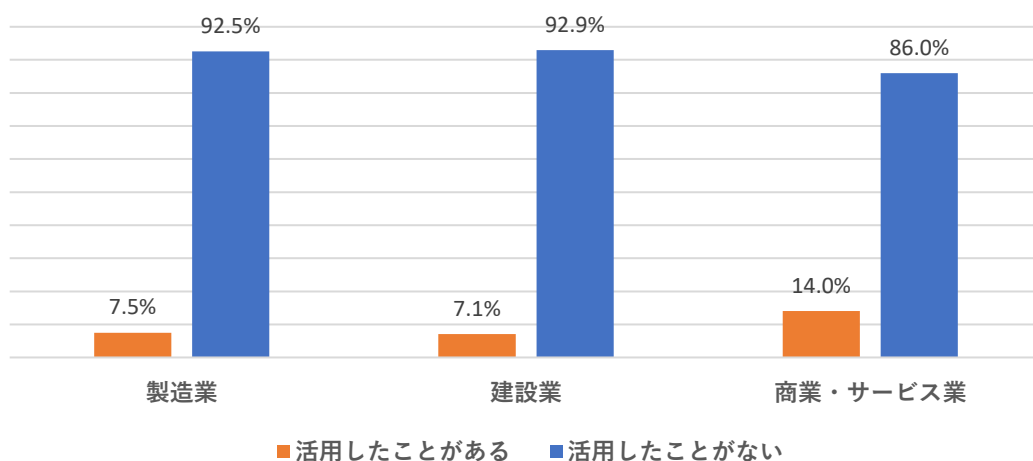
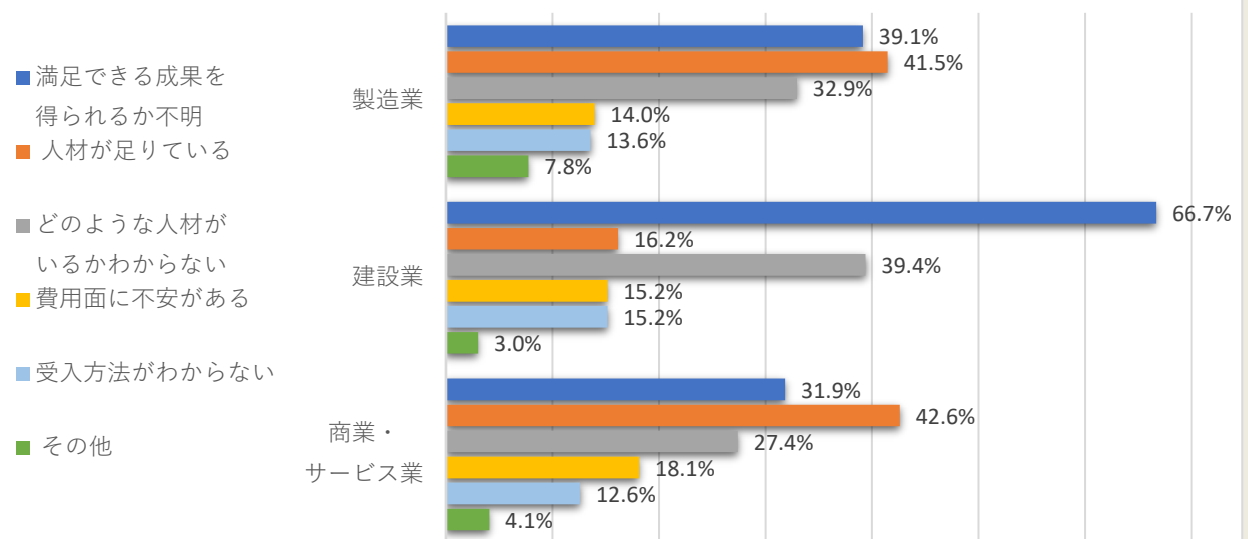


図4 副業・兼業人材を活用していない理由 ※複数回答



令和7年7-9月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは0.3ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和7年7-9月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和7年8月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：924社（46.2%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	311	56.5%
建設業	250	121	48.4%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	492	41.0%
合計	2,000	924	46.2%

2. 調査結果

（1）総合

	令和6年	令和7年				令和8年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲21.7	▲26.3	▲24.8	▲25.1	▲25.4	▲26.0
売上DI	▲9.9	▲18.0	▲16.6	▲12.3	—	—
採算DI	▲25.7	▲29.5	▲24.7	▲23.8	—	—

総合の業況DIは、前期比0.3ポイント低下の▲25.1となった。

経営状況では、売上DIは前期比4.3ポイント上昇の▲12.3、また、採算DIは同0.9ポイント上昇の▲23.8となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比0.3ポイント低下の▲25.4、半年後は同0.9ポイント低下の▲26.0を見込んでいます。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和6年	令和7年				令和8年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲20.3	▲23.3	▲27.0	▲25.2	▲26.6	▲22.7
売上DI	▲8.6	▲16.9	▲20.0	▲8.3	—	—
採算DI	▲22.7	▲23.3	▲21.0	▲17.2	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比1.8ポイント上昇の▲25.2となった。

経営状況では、売上DIは、前期比11.7ポイント上昇の▲8.3、採算DIは同3.8ポイント上昇の▲17.2となった。

「受注残消化により、生産が忙しい状況が続く。」「材料が高くなり、ガソリン代等も高く経費も大変である。人材を増やさず、現在の状態を続けていくしかない。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比1.4ポイント低下の▲26.6、半年後は同2.5ポイント上昇の▲22.7を見込んでおり、「装置販売と受託事業の受注が近い未来に予測されているので10月～12月は売上増加が見込まれる。」「既存得意先の多くは低調のまま横ばいであるが、やや回復基調も見え始めている。」「半導体関連の影響か業界全体で落ち込んでおり売上も前期より落ち込んでいる。今後の見通しがたっていない状況です。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和6年	令和7年				令和8年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
一般機械	▲18.0	▲17.6	▲15.5	▲28.9	▲31.3	▲21.7
電気機械	▲15.9	▲19.3	▲23.0	▲18.2	▲13.6	▲12.1
輸送用機械	▲18.9	▲13.0	▲36.5	▲10.6	▲23.4	▲17.0
その他	▲25.2	▲34.1	▲33.9	▲32.5	▲32.1	▲32.1

中分類で見ると、一般機械は前期比13.4ポイント低下の▲28.9、電気機械は同4.8ポイント上昇の▲18.2、輸送用機械は同25.9ポイント上昇の▲10.6となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比2.4ポイント低下の▲31.3、電気機械が同4.6ポイント上昇の▲13.6、輸送用機械は同12.8ポイント低下の▲23.4、半年後は一般機械が同7.2ポイント上昇の▲21.7、電気機械が同6.1ポイント上昇の▲12.1、輸送用機械は同6.4ポイント低下の▲17.0を見込んでいる。

<建設業>

	令和6年	令和7年				令和8年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲3.2	▲1.6	0.0	4.1	0.8	▲5.0
売上DI	▲6.5	6.0	▲10.3	2.5	—	—
採算DI	▲18.7	▲12.8	▲19.0	▲0.8	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比4.1ポイント上昇の4.1となった。

経営状況では、売上DIは前期比12.8ポイント上昇の2.5、採算DIは同18.2ポイント上昇の▲0.8となった。

「猛暑で工事の遅れが心配である。」「受注の依頼があっても管理する人が足りない為、受注できない時もある。」「設備投資が決まっても、足踏みされる顧客が多いように感じます。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比3.3ポイント低下の0.8、半年後は同9.1ポイント低下の▲5.0を見込んでおり、「公共事業は堅調だが、人件費、材料費等ほぼすべてのコストが増加しており、先が見通しづらい状況にある。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	令和6年	令和7年				令和8年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲27.1	▲34.4	▲29.4	▲32.2	▲31.1	▲33.4
売上DI	▲11.6	▲24.3	▲15.9	▲18.6	—	—
採算DI	▲29.3	▲37.5	▲28.7	▲33.9	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比2.8ポイント低下の▲32.2となった。

経営状況では、売上DIは前期比2.7ポイント低下の▲18.6、採算DIは同5.2ポイント低下の▲33.9となった。「商品仕入の高騰、賃金の高騰、利益が出ない。」「物価高により、かなりの値上げを実施しました。客数は減りましたが、売上、客単価は上がり、利益が出るようになりました。」「業績は良化見通しであるが、人員不足により生産量が増加出来ない状況。」「競争による価格交渉により、値引きをせざるを得なくなるため、薄利になる。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比1.1ポイント上昇の▲31.1、半年後は同1.2ポイント低下の▲33.4を見込んでいる。「見込み案件（受注前の見積り段階の案件）件数が減っており、今後の新規受注は厳しくなる見通し。」「夏は季節の性格上、売上げが悪い。秋からは回復見込み。」「輸入商品を多く扱っているため、不安定な為替相場が今後も懸念事項です。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和6年	令和7年				令和8年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
卸売業	▲17.8	▲37.5	▲29.6	▲30.0	▲27.3	▲31.3
小売業	▲37.4	▲46.3	▲40.1	▲41.0	▲40.6	▲43.5
飲食店	▲16.0	▲19.4	▲18.2	▲24.2	▲12.3	▲18.5
サービス業	▲23.1	▲19.8	▲17.2	▲24.6	▲29.1	▲27.6

業種別では、卸売業は前期比0.4ポイント低下の▲30.0、小売業は同0.9ポイント低下の▲41.0、飲食店は同6.0ポイント低下の▲24.2、サービス業は同7.4ポイント低下の▲24.6となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比2.7ポイント上昇の▲27.3、小売業は同0.4ポイント上昇の▲40.6、飲食店は同11.9ポイント上昇の▲12.3、サービス業は同4.5ポイント低下の▲29.1、半年後では卸売業が同1.3ポイント低下の▲31.3、小売業は同2.5ポイント低下の▲43.5、飲食店は同5.7ポイント上昇の▲18.5、サービス業は同3.0ポイント低下の▲27.6を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和6年	令和7年				令和8年
		10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
中規模	業況DI	▲17.0	▲19.4	▲15.1	▲17.4	▲17.9	▲20.8
	売上DI	▲3.5	▲9.9	▲10.1	▲5.8	—	—
	採算DI	▲22.9	▲25.0	▲20.7	▲20.4	—	—
小規模	業況DI	▲27.2	▲34.4	▲36.1	▲34.0	▲34.1	▲32.2
	売上DI	▲17.4	▲27.5	▲24.3	▲19.9	—	—
	採算DI	▲28.9	▲34.7	▲29.4	▲27.9	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比2.3ポイント低下の▲17.4、小規模企業は同2.1ポイント上昇の▲34.0となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比4.3ポイント上昇の▲5.8、採算DIが同0.3ポイント上昇の▲20.4、小規模企業は売上DIが同4.4ポイント上昇の▲19.9、採算DIが同1.5ポイント上昇の▲27.9となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比0.5ポイント低下の▲17.9、半年後が同3.4ポイント低下の▲20.8、小規模企業は3か月後が同0.1ポイント低下の▲34.1、半年後が同1.8ポイント上昇の▲32.2を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和6年	令和7年				令和8年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
横浜	▲22.2	▲20.2	▲20.9	▲20.8	▲23.3	▲23.3
川崎	▲27.6	▲33.3	▲28.0	▲27.6	▲25.0	▲25.8
横須賀	▲27.5	▲27.8	▲24.7	▲17.2	▲24.4	▲30.2
平塚	▲30.4	▲29.4	▲23.4	▲41.7	▲40.0	▲38.9
藤沢	▲11.9	▲25.7	▲28.7	▲18.6	▲18.8	▲16.0
相模原	▲15.0	▲28.7	▲31.7	▲28.4	▲25.9	▲27.2
厚木	▲15.8	▲24.3	▲27.2	▲22.7	▲26.8	▲27.8
足柄上・西湘	▲21.3	▲29.5	▲19.6	▲29.2	▲22.1	▲24.2

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比0.1ポイント上昇の▲20.8）、川崎地区（同0.4ポイント上昇の▲27.6）、横須賀地区（同7.5ポイント上昇の▲17.2）、平塚地区（同18.3ポイント低下の▲41.7）、藤沢地区（同10.1ポイント上昇の▲18.6）、相模原地区（同3.3ポイント上昇の▲28.4）、厚木地区（同4.5ポイント上昇の▲22.7）、足柄上・西湘地区（同9.6ポイント低下の▲29.2）となり6地区で上昇し、2地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比2.5ポイント低下の▲23.3）、川崎地区（同2.6ポイント上昇の▲25.0）、横須賀地区（同7.2ポイント低下の▲24.4）、平塚地区（同1.7ポイント上昇の▲40.0）、藤沢地区（同0.2ポイント低下の▲18.8）、相模原地区（同2.5ポイント上昇の▲25.9）、厚木地区（同4.1ポイント低下の▲26.8）、足柄上・西湘地区（同7.1ポイント上昇の▲22.1）となり4地区で上昇し、4地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比2.5ポイント低下の▲23.3）、川崎地区（同1.8ポイント上昇の▲25.8）、横須賀地区（同13.0ポイント低下の▲30.2）、平塚地区（同2.8ポイント上昇の▲38.9）、藤沢地区（同2.6ポイント上昇の▲16.0）、相模原地区（同1.2ポイント上昇の▲27.2）、厚木地区（同5.1ポイント低下の▲27.8）、足柄上・西湘地区（同5.0ポイント上昇の▲24.2）となり5地区で上昇し、3地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 徳田

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査（令和7年7月～9月期）

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		311	121	101	195	66	130	492	924
業況判断	現在の業況	▲25.2	4.1	▲30.0	▲41.0	▲24.2	▲24.6	▲32.2	▲25.1
	3ヶ月後の業況	▲26.6	0.8	▲27.3	▲40.6	▲12.3	▲29.1	▲31.1	▲25.4
	半年後の業況	▲22.7	▲5.0	▲31.3	▲43.5	▲18.5	▲27.6	▲33.4	▲26.0
経営状況	売上	▲8.3	2.5	▲10.3	▲24.7	▲11.3	▲19.7	▲18.6	▲12.3
	採算	▲17.2	▲0.8	▲20.6	▲41.4	▲42.2	▲28.7	▲33.9	▲23.8
	引き合い／客数	▲8.6	6.7	▲18.6	▲36.0	▲26.6	▲16.4	▲26.0	▲15.7
	単価	15.6	29.4	6.2	▲10.3	1.6	▲2.5	▲3.2	7.6
	仕入価格	▲60.9	▲63.9	▲69.1	▲75.8	▲79.7	▲67.2	▲72.7	▲67.5
	資金繰り	▲22.8	▲5.0	▲20.8	▲31.5	▲31.3	▲27.3	▲28.2	▲23.3
	残業	▲11.6	▲8.4	▲8.2	▲15.8	▲27.4	▲18.5	▲16.5	▲13.7
	設備稼働	▲10.0	2.6	—	—	—	—	—	▲6.5
前期経営実績	売上水準	▲15.3	▲5.1	▲18.6	▲33.3	▲12.7	▲21.3	▲24.4	▲18.7
	利益水準	7.3	7.6	1.0	▲17.4	▲12.9	▲4.1	▲9.5	▲1.5
	在庫	8.6	▲4.4	10.5	▲3.3	▲1.6	▲6.9	▲1.1	1.8
	投資	▲7.3	▲0.9	▲4.3	▲13.9	▲11.1	▲4.3	▲9.1	▲7.4
	雇用状況	▲21.3	▲44.5	▲20.8	▲22.8	▲34.9	▲35.8	▲27.5	▲27.6

参考＜前回調査＞ 景気動向調査（令和7年4月～6月期）

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		323	117	98	198	66	117	479	919
業況判断	現在の業況	▲27.0	0.0	▲29.6	▲40.1	▲18.2	▲17.2	▲29.4	▲24.8
	3ヶ月後の業況	▲32.0	▲5.3	▲35.1	▲43.7	▲24.6	▲30.2	▲36.0	▲30.7
	半年後の業況	▲25.7	▲8.7	▲40.4	▲44.9	▲18.8	▲30.2	▲36.9	▲29.4
経営状況	売上	▲20.0	▲10.3	▲16.7	▲25.0	1.5	▲10.4	▲15.9	▲16.6
	採算	▲21.0	▲19.0	▲20.8	▲35.6	▲41.5	▲16.5	▲28.7	▲24.7
	引き合い／客数	▲19.0	▲7.8	▲5.2	▲30.5	▲20.3	▲14.8	▲19.9	▲18.0
	単価	11.1	11.2	▲1.0	▲14.0	16.9	12.3	▲0.4	5.2
	仕入価格	▲65.1	▲73.0	▲71.9	▲77.5	▲84.6	▲71.4	▲75.9	▲71.7
	資金繰り	▲25.5	▲13.8	▲13.5	▲39.0	▲29.2	▲17.5	▲27.1	▲24.8
	残業	▲21.3	▲14.7	▲14.6	▲8.8	▲12.7	▲7.8	▲10.3	▲14.8
	設備稼働	▲24.1	▲7.1	—	—	—	—	—	▲19.6
前期経営実績	売上水準	▲14.3	8.6	▲15.6	▲31.6	▲10.8	▲15.7	▲21.4	▲15.0
	利益水準	10.5	27.6	8.3	▲20.9	▲10.8	1.7	▲7.8	3.2
	在庫	9.3	▲0.9	12.6	3.2	4.6	▲4.5	3.5	5.0
	投資	▲9.9	▲3.6	▲11.7	▲9.8	▲10.8	▲4.5	▲9.0	▲8.6
	雇用状況	▲18.8	▲46.6	▲26.0	▲26.6	▲40.0	▲33.3	▲30.1	▲28.3

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		159	152	65	56	272	220	496	428
業況判断	現在の業況	▲19.6	▲30.9	16.9	▲10.7	▲24.3	▲42.0	▲17.4	▲34.0
	3ヶ月後の業況	▲22.2	▲31.3	10.9	▲10.7	▲22.2	▲42.3	▲17.9	▲34.1
	半年後の業況	▲18.4	▲27.3	3.1	▲14.3	▲27.9	▲40.4	▲20.8	▲32.2
経営状況	売上	0.6	▲17.7	7.8	▲3.6	▲13.0	▲25.7	▲5.8	▲19.9
	採算	▲14.2	▲20.4	3.1	▲5.5	▲29.8	▲39.1	▲20.4	▲27.9
	引き合い／客数	1.3	▲19.0	12.5	0.0	▲25.6	▲26.6	▲11.9	▲20.3
	単価	23.2	7.5	31.3	27.3	2.7	▲10.6	13.2	1.0
	仕入価格	▲59.4	▲62.6	▲64.1	▲63.6	▲71.9	▲73.8	▲66.8	▲68.4
	資金繰り	▲23.2	▲22.4	7.8	▲20.0	▲22.8	▲35.0	▲18.8	▲28.4
	残業	▲11.0	▲12.2	▲7.8	▲9.1	▲14.7	▲18.7	▲12.6	▲15.1
	設備稼働	▲9.1	▲10.9	4.7	0.0	—	—	▲5.0	▲8.0
前期経営実績	売上水準	▲10.4	▲20.5	3.2	▲14.5	▲16.1	▲34.8	▲11.7	▲27.0
	利益水準	16.8	▲2.7	21.9	▲9.1	1.9	▲23.8	9.4	▲14.2
	在庫	12.3	4.8	▲4.8	▲3.9	3.2	▲6.4	5.1	▲2.0
	投資	▲3.2	▲11.6	4.7	▲7.8	▲5.2	▲13.7	▲3.2	▲12.2
	雇用状況	▲25.2	▲17.1	▲59.4	▲27.3	▲35.3	▲17.6	▲35.2	▲18.8

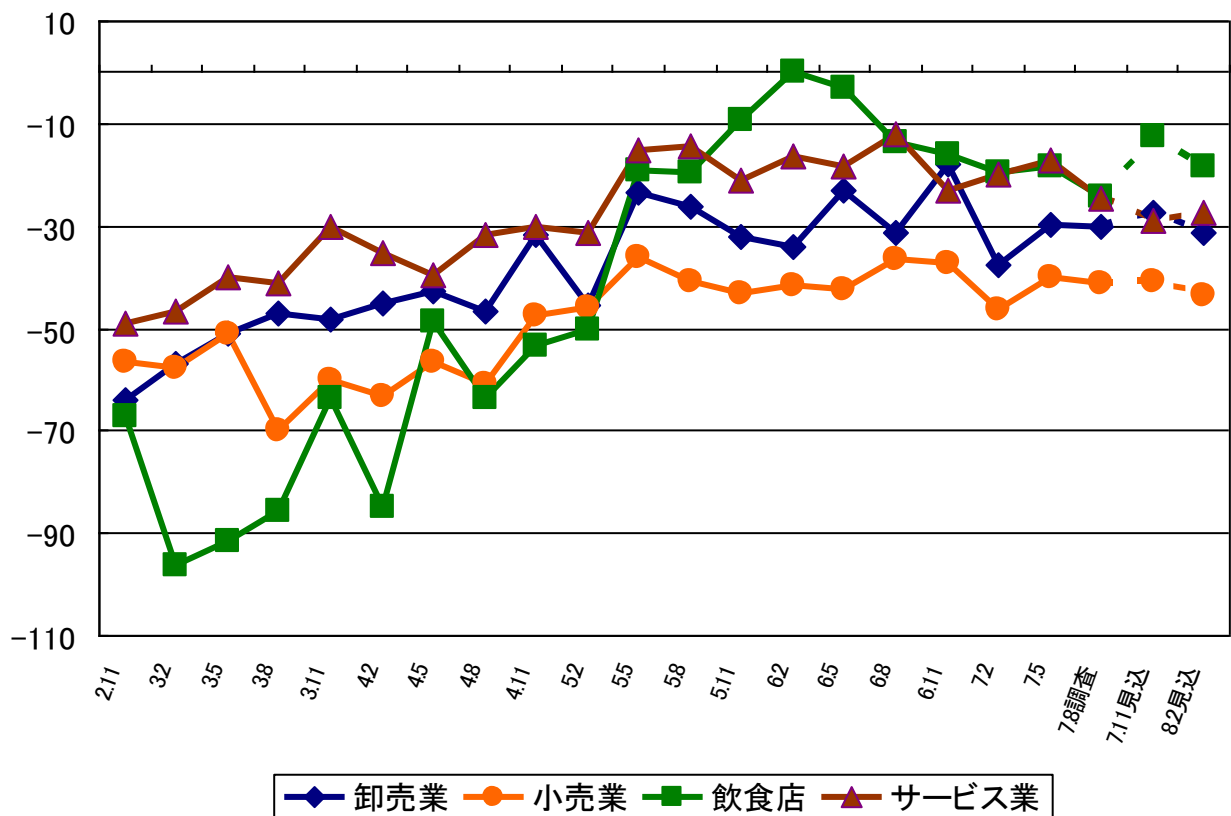
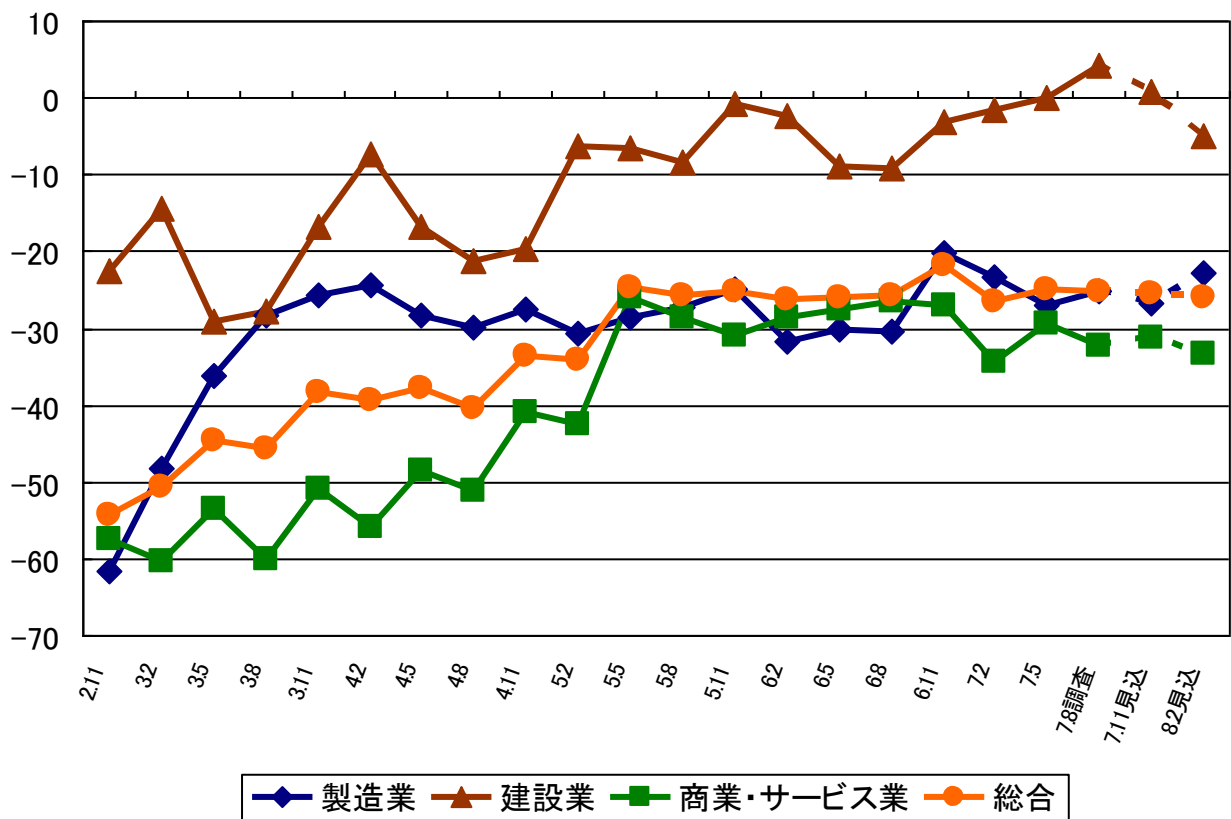
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		241	123	87	96	102	81	97	97	924
業況判断	現在の業況	▲20.8	▲27.6	▲17.2	▲41.7	▲18.6	▲28.4	▲22.7	▲29.2	▲25.1
	3ヶ月後の業況	▲23.3	▲25.0	▲24.4	▲40.0	▲18.8	▲25.9	▲26.8	▲22.1	▲25.4
	半年後の業況	▲23.3	▲25.8	▲30.2	▲38.9	▲16.0	▲27.2	▲27.8	▲24.2	▲26.0
経営状況	売上	▲9.1	▲12.8	▲7.2	▲29.3	▲4.1	▲12.7	▲12.9	▲14.9	▲12.3
	採算	▲19.3	▲24.8	▲20.5	▲37.0	▲27.6	▲22.8	▲23.7	▲21.1	▲23.8
	引き合い／客数	▲12.0	▲13.7	▲16.9	▲32.6	▲13.3	▲17.7	▲9.7	▲16.8	▲15.7
	単価	4.8	10.3	13.3	2.2	15.3	10.1	4.3	4.2	7.6
	仕入価格	▲69.4	▲66.1	▲57.8	▲60.9	▲73.5	▲72.2	▲66.7	▲70.5	▲67.5
	資金繰り	▲20.9	▲21.4	▲15.7	▲34.1	▲20.4	▲30.4	▲21.5	▲26.3	▲23.3
	残業	▲11.8	▲10.3	▲12.0	▲23.1	▲17.3	▲13.0	▲16.1	▲9.5	▲13.7
	設備稼働	1.0	0.0	▲5.7	▲23.7	▲7.0	▲18.8	▲4.2	▲7.1	▲6.5
前期経営実績	売上水準	▲17.7	▲20.7	▲18.1	▲26.1	▲6.1	▲28.2	▲18.3	▲17.9	▲18.7
	利益水準	3.9	▲0.9	▲3.6	▲11.0	2.1	▲5.1	5.4	▲11.7	▲1.5
	在庫	2.7	▲3.5	6.1	▲3.3	▲2.1	10.3	2.2	4.3	1.8
	投資	▲5.9	▲6.1	▲9.9	▲13.5	▲4.1	▲11.5	▲4.3	▲7.4	▲7.4
	雇用状況	▲29.1	▲31.0	▲34.1	▲28.9	▲30.9	▲26.0	▲20.4	▲18.1	▲27.6

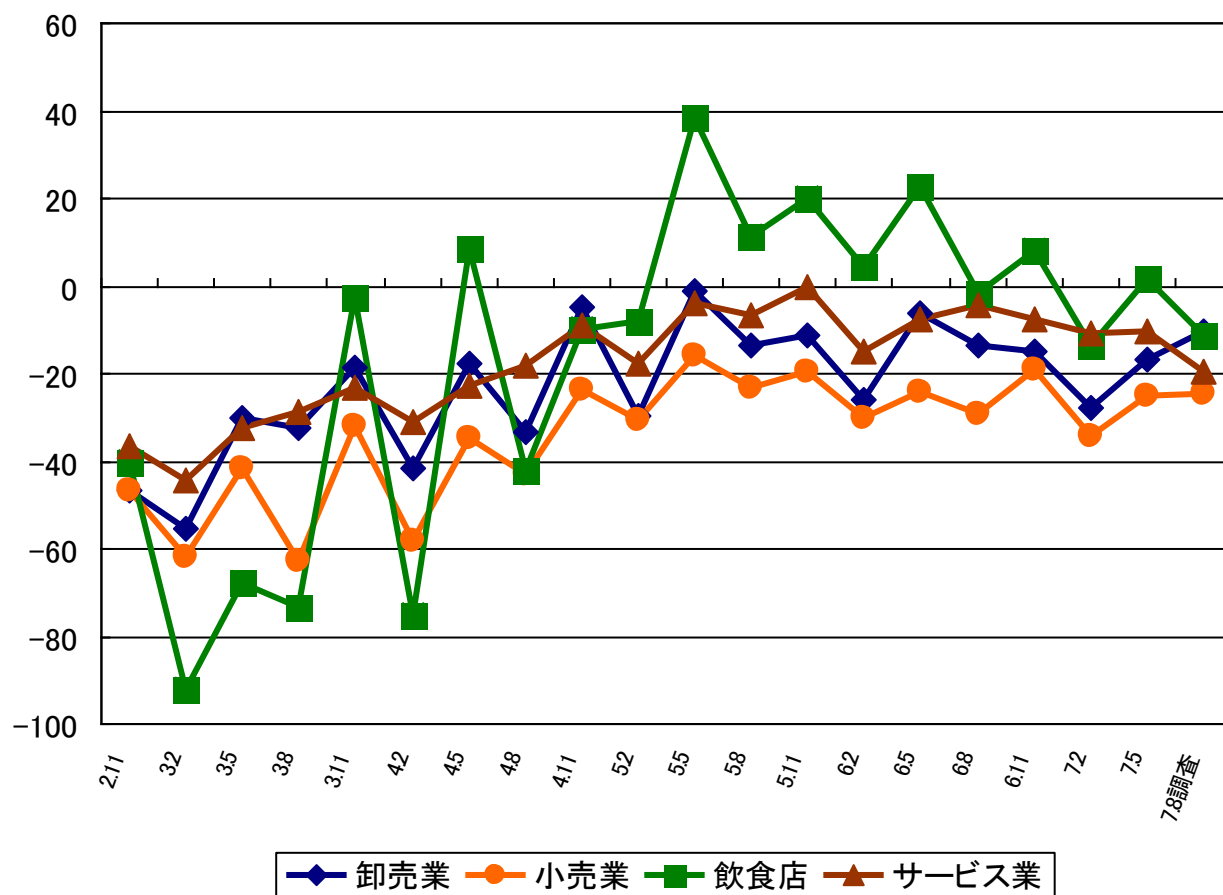
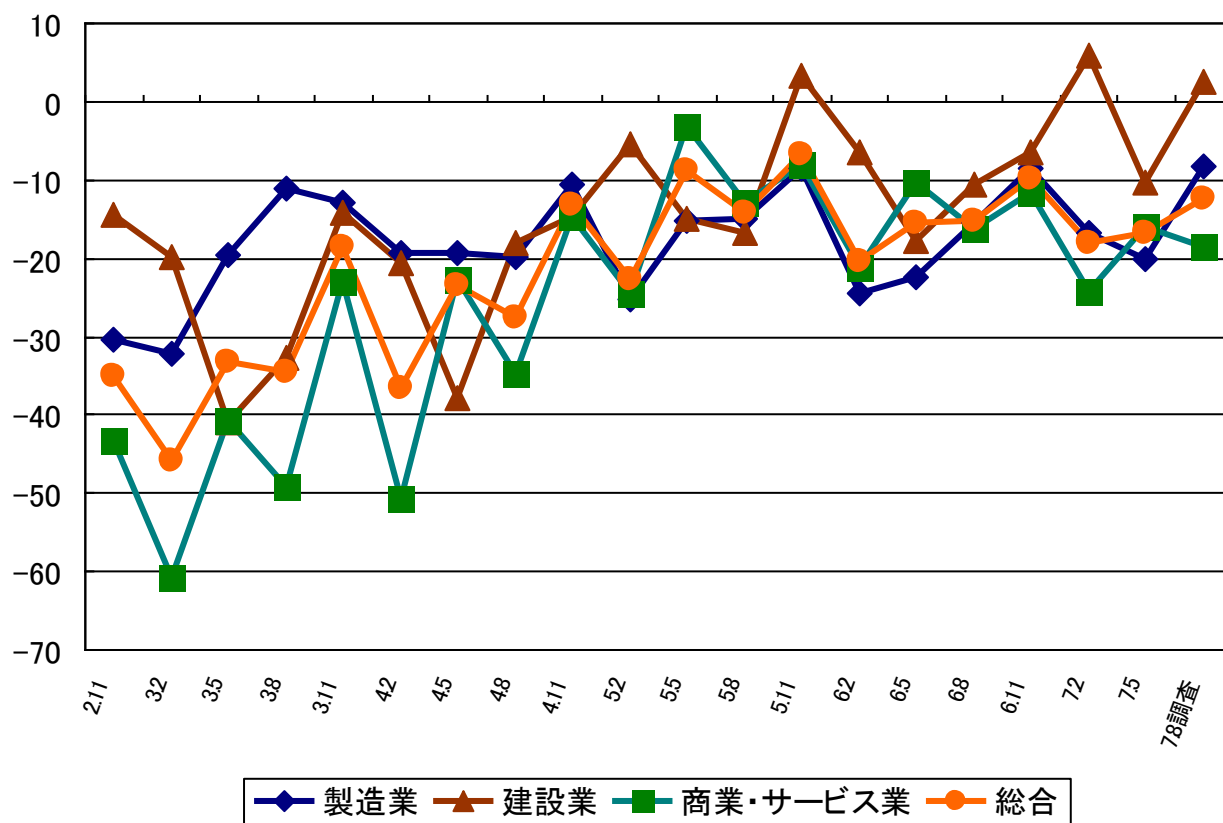
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		84	66	47	114	311
業況判断	現在の業況	▲28.9	▲18.2	▲10.6	▲32.5	▲25.2
	3ヶ月後の業況	▲31.3	▲13.6	▲23.4	▲32.1	▲26.6
	半年後の業況	▲21.7	▲12.1	▲17.0	▲32.1	▲22.7
経営状況	売上	▲15.9	0.0	▲4.4	▲9.0	▲8.3
	採算	▲12.2	▲10.9	▲11.1	▲27.0	▲17.2
	引き合い／客数	▲9.8	0.0	▲2.2	▲15.3	▲8.6
	単価	8.5	28.1	22.2	10.8	15.6
	仕入価格	▲57.3	▲65.6	▲48.9	▲65.8	▲60.9
	資金繰り	▲19.5	▲18.8	▲15.6	▲30.6	▲22.8
	残業	▲9.8	▲1.6	▲15.6	▲17.1	▲11.6
	設備稼働	▲7.3	7.9	▲13.3	▲20.7	▲10.0
前期経営実績	売上水準	▲12.2	▲14.1	2.3	▲25.5	▲15.3
	利益水準	13.4	14.1	8.9	▲1.8	7.3
	在庫	8.6	10.9	4.4	9.0	8.6
	投資	▲13.4	0.0	▲11.1	▲5.4	▲7.3
	雇用状況	▲31.7	▲23.4	▲20.0	▲12.7	▲21.3

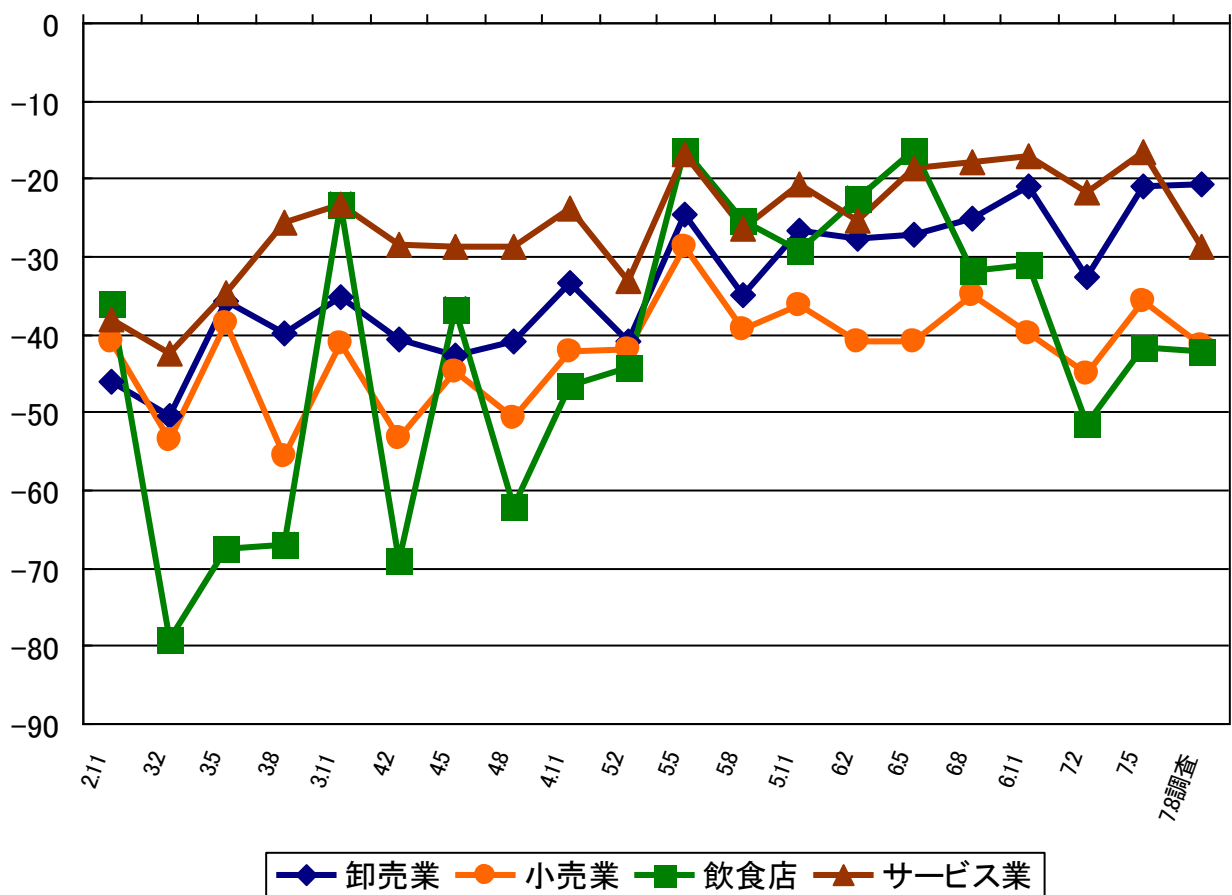
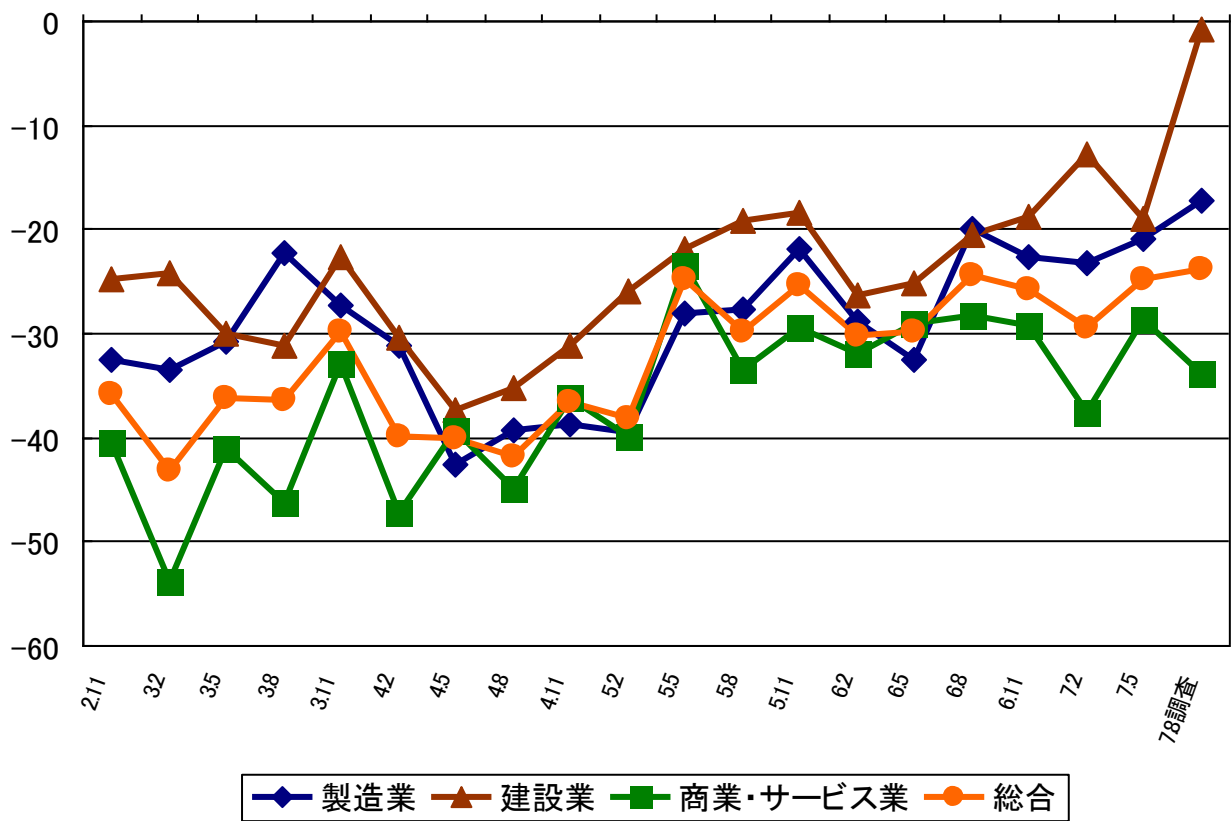
業況DIの推移



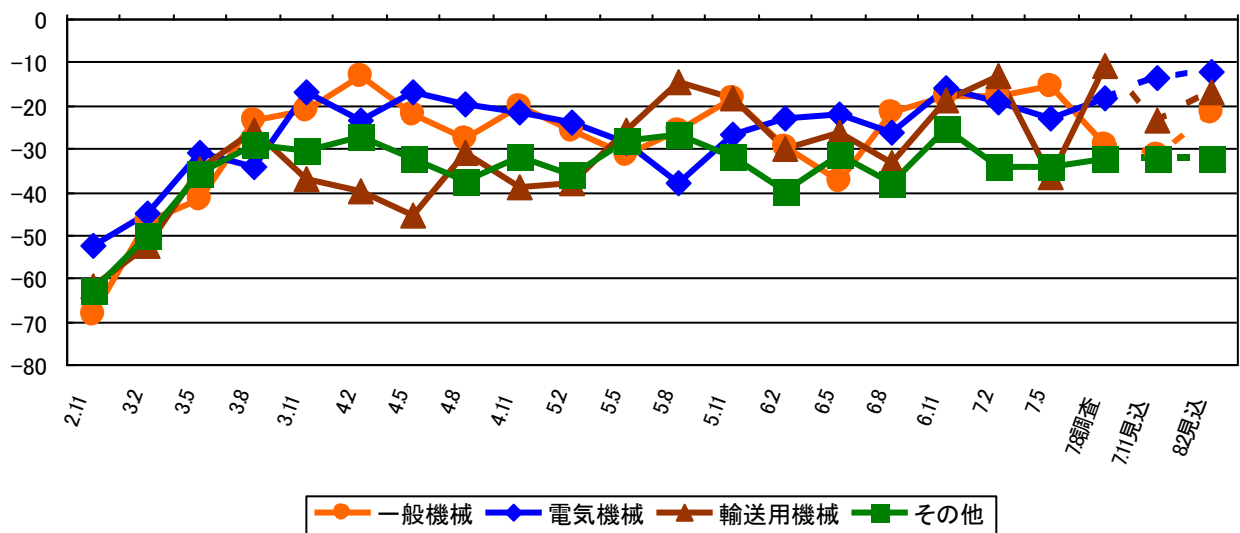
売上DIの推移



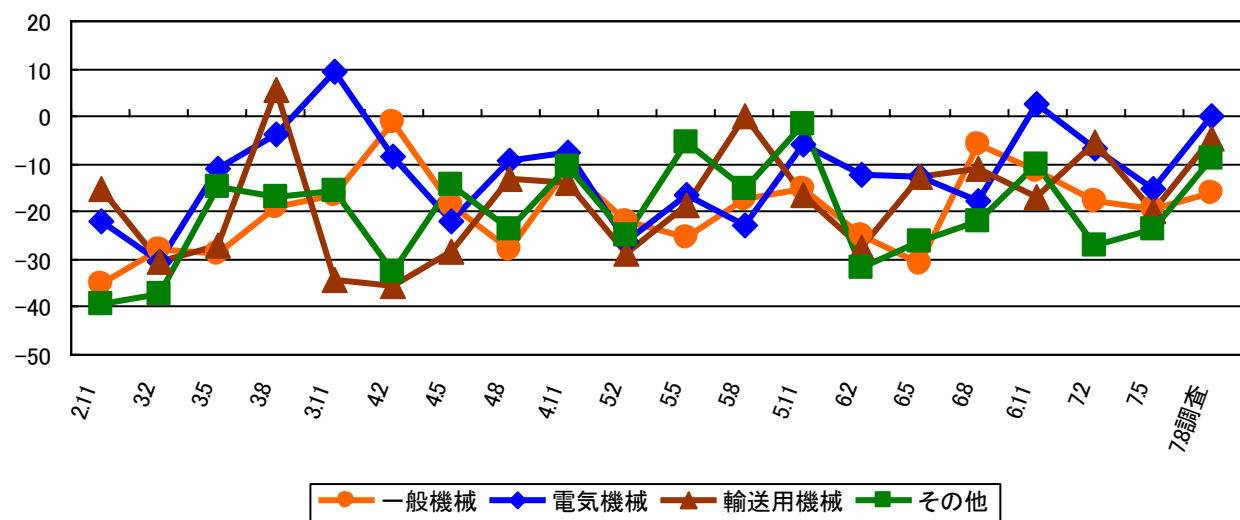
採算DIの推移



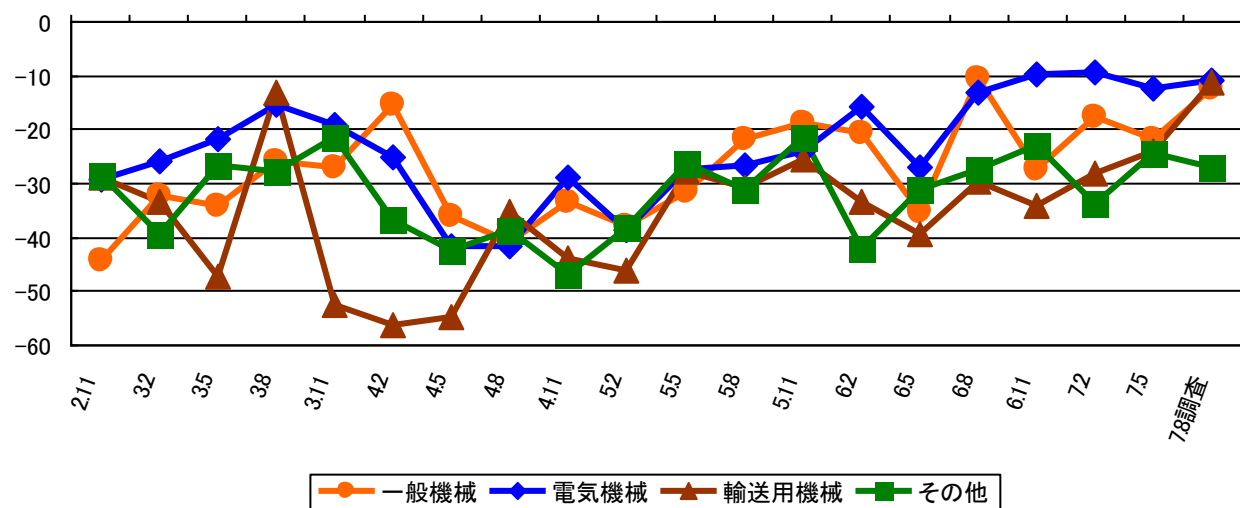
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「既存得意先の多くは低調のまま横ばいであるが、やや回復基調も見え始めている。」
「外国人技能実習生制度を利用し始めて、7年が経ちます。日本語や日本の文化を勉強しながら、日々の仕事に対して真摯に取り組んでおります。今では、欠かせない戦力です。」
「取引先の在庫調整により業況は不調気味であったが一巡し夏場以降は回復に、大いに期待。」
「製造業（銅管加工）については順調。建設業は人員不足による注文の取り逃しや原価率の上昇により悪化。」
「装置販売と受託事業の受注が近い未来に予測されているので10月～12月は売上増加が見込まれる。」
「受注残消化により、生産が忙しい状況が続く。」
「主要取引顧客の全社業績は順調に推移する見込みであるが弊社との取引部門(領域)にどこまで波及するかは現状不透明。間接的に関税の影響が波及する可能性あり。」
「幸いにも材料費や人件費UP分を顧客に理解していただき、転嫁することができている。受注量も好調だが、技術職の人材が圧倒的に不足。また、政権の不安定さやトランプ関税の関係で先行き不透明感は拭えない。最低賃金のUP率も気になる。最低賃金が上がれば他の社員も賃金を上げざるを得ないし、社会保険料の負担も増える。弊社も含め中小企業はより厳しい環境でふるいに掛けられそう。」
「現状のままでは数年先は先細りしていくと予想しており、今後は新たな事業を増やしていく必要と、人材・設備の増強が必要であると考えています。」
「材料が高くなり、ガソリン代等も高く経費も大変である。人材を増やさず、現在の状態を続けていくしかない。」
「半導体関連の影響が業界全体で落ち込んでおり売上も前期より落ち込んでいる。今後の見通しがたっていない状況です。」
「6月以降、減産が続いており採算が合わない状況。トランプ関税・物価高の影響で企業がどんどん海外・地方へ移行。我々零細企業にはなかなかできる事ではない。また、熱中症対策義務化などで電気代高騰、ガソリン価格も下がらないので輸送費も高騰、最低賃金引上げも控えているので今期はどの中小零細企業も厳しい結果になると思います。」
「弊社の業界は繁忙期に入っていくので、売上、利益とも増えていくが、材料コストアップと価格転嫁が問題。」
「雇用状況について、受注ロット数量の減少に伴って新規案件受注するも多品種対応となり、専門職及び管理担当者人員に負荷が多くなっており、軽作業担当者の仕事量が薄くなっている。」

<建設業>

「猛暑で工事の遅れが心配である。」
「設備投資が決まっても、足踏みされる顧客が多いように感じます。」
「現在はリフォーム工事等で頑張っているが、受注単価が低い。特に官庁工事については設計価格に対し、実際の発注単価の方がはるかに高い、結果利益が低い。」
「公共工事の受注が大多数がくじ引きなので受注環境が厳しい。」
「緩やかに上昇傾向。」
「受注の依頼があっても管理する人が足りない為、受注できない時もある。」
「定年退職者が今後増える見込み。70歳までの延長を見込んでも、人員確保が難しい。新卒3年目での退職者が近年続いている。」
「公共事業は堅調だが、人件費、材料費等ほぼすべてのコストが増加しており、先が見通しづらい状況にある。」
「建設業に限れば、高齢化が深刻。神奈川はみなとみらいの再開発が減少し、非常に厳しい展開が予想される。」
「6月より入札制度が変更され、今まで以上に落札が難しくなった。今後の経営方針を考え直さなければならない。」

<卸売業>

「輸入商品を多く扱っているため、不安定な為替相場が今後も懸念事項です。」
「建設資材・販売動向は変わらないが、今後の建設状況は案件が少ない。因って価格競争が更に厳しく、工事受注が減少する事が見込まれる。」
「照明（電球・蛍光灯）は、LED化でゼロへ。」
「地震があるという噂が広まり、7月は訪日外国人が減ったのではないかと感じています。今後順調に回復してくればと考えています。」
「日産自動車の影響により関連会社の設備投資等の経費が抑えられている状況にある。」
「本年上期1月～6月は売上高が減り悪い状況が続きました。不景気感及びトランプ関税、参議院選挙等々もあり前半は不調でした。7月に入り少しずつ戻ってはきましたが、年末に向けまだまだ心配は続くと思います。」
「造船業が良好。その他半導体等不調。」
「人手不足が深刻です。現場スタッフは、募集しても来ない。今後さらに厳しくなります。」

調査回答企業からのコメント(一部)

<小売業>

「猛暑と諸物価値上がりで、必需品ではないので、お客様が減っています。」
「不況。商品代及び材料、諸費用が高くなっている。地域店の売上は少しずつ下がっている。」
「競合店の開店により客数を奪われている。また、入荷商品の欠品が多発しており対策が急務。」
「電気工事作業する人材が圧倒的に不足していることが悩み。代表自ら現場対応しているため、ほかの業務ができない。」
「業績は良化見通しであるが、人員不足により生産量が増加出来ない状況。」
「生活材の値上げや気温上昇による熱中症警戒アラートなども影響してか、主たる顧客層の皆さまの出入りが減少傾向です。基本的に不急の商材のため、少し気温が下がり年配の方々がお出かけムードに戻るまでは耐え忍ぶ毎日です。またブライダルジュエリーも貴金属材料値上がりの為の価格改定で、すでに駆け込み受注済みなため、今年後半は右肩下がりを覚悟しています。」
「原材料、特に米の仕入れ値が2~3倍に上がっている。その価格転嫁に対応しきれていない。値上げをすれば、客離れを招く恐れがあるので、思い切った値上げができない。加えて猛暑の影響で、人手自体が減少している。」
「末端消費は冷え込んでいるようです。」
「主力商品の珈琲原料の高騰。そのまま価格に転嫁できないほどの高騰率。人員不足が解消しない。扶養内で働く人の勤務時間がどんどん短くなり、一方で人員確保ができない。今年も最低賃金が大きく上がり、一時的な収入増による「年収の壁支援化パッケージ」が使えるのも今年までで、来年以降年収の壁「130万」について有効な政策がない限り人員不足は解消されない。」
「営業地域が便の悪さと顧客の減少。今後の見通しは立ちません。」
「競争による価格交渉により、値引きをせざるを得なくなるため、薄利になる。」
「価格の値上げによる売上が増えているが仕入が高くなっている分利益を圧迫している。」
「ネット販売が難しくなっている。」
「材料費の高騰（チョコレート）、最低賃金の上昇（退職されると人手不足になるのでこれ以上は会社が成り立たなくなる。職人の成り手がいなくなっている）。」

<飲食店>

「商品仕入の高騰、賃金の高騰、利益が出ない。」
「物価高により、かなりの値上げを実施しました。客数は減りましたが、売上、客単価は上がり、利益が出るようになりました。」
「時給が上がってパートさんの一人あたりの時間が少なくなり、人員の確保が難しい。103万の壁を早く上げてほしい。」
「お米の作柄に多大な影響を受けますので、雨不足が不安です。」
「売上は対前年と比べ少しの減少だが、全般的に仕入れが高く、特に肉の仕入れが高い。上がった分、商品単価の変更をしたいが、客離れが起こる為上げられず、赤字になった。」
「仕入れの金額が高くなる一方で、なかなか利益に結び付かない。」
「店舗少なくし、利益を上げる事を考えて実行。」
「現状物価高騰、人材不足の解消は不透明な状況ながらも各種施策を検討、実施しています。」
「猛暑で観光客が激減。」
「利用客数が減っている。」

<サービス業>

「値引き要求が多くなっている。」
「1日の営業の中で、客のいない時が多くなった。」
「7月は異常な暑さのため、年配のお客様のご来店頻度が落ちています。涼くなったあと、期待しています。」
「春先に多少（一部）値上げしたものの、客数、1客単価の減少が止まらない状況。仕入れ、人件費、様々なコストが上がり、苦しい。」
「夏は季節の性格上、売上げが悪い、秋からは回復見込み。」
「中長期では、人材不足、価格転嫁、間接コスト増等の先行き不安要素があるが、ソフトウェア開発の案件事態は見込まれるので、適正な受注環境整備を常に求めている状況です。」
「人手不足で人員を増強したいが、値上げの影響などもあり、難しい部分がある。価格に対して、値上げして対応しようとしているが、それ以上に色々な物に対して値上げされ追いつかない。」
「不調の要因は、全体的に輸送依頼件数が低迷していることが要因です。また、この状況は不透明なためこの先の回復の見通し及び目途は立っていない状況。」
「人件費、仕入単価の上昇。」
「物価高騰・人件費増大・業界を志望する人材の不足が、依然として根強く続いている。」
「見込み案件（受注前の見積り段階の案件）件数が減っており、今後の新規受注は厳しくなる見通し。」